

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

信州大学サステナブル社会協創学環では、ディプロマ・ポリシーで掲げる「4つのシコウ(志向・思考・試行・至高)」を教育課程全体の構成原理として、学修段階と科目体系を設計する。教育の核は「協創」「実践」「統合」であり、学生が自らの学びを社会価値に転換できるよう、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施する。

1.教育課程の基本方針

- ①学生のパーソナリティ形成から専門知識の獲得・深化、社会実践・価値創造に至るまでの4段階の学修過程をDPで示した「4つのシコウ(志向・思考・試行・至高)」に基づいて体系化する。
- ②4つのシコウは、学修の実践(実践系科目)と知識の深化(専攻系科目)の循環によって確立される構造とする
- ③学修の実践(実践系科目)は、初年次では演習や経験獲得を通じて志向性を獲得し、高年次では自律的/自立的に取り組み、社会協創力や実現力を高める。
- ④サステナビリティに関する専門知識の深化(専攻系科目)は、初年次では横断的に学修によって広く知識を獲得し、学年進行に従ってコースに分化し、より専門性を深化・先鋭化させる。
- ⑤学修成果は、PBL、アクションリサーチ、協創型演習、卒業研究等により広く社会と共有し、社会実装を通じて評価する。

2.学修段階と科目体系の構造

学修段階	教育目的	主な科目群	DP	CP
①パーソナリティ形成 ※主に1年次	自己理解と社会理解を深め、主体性・協創意識を涵養する。	●実践系・価値協創演習科目 サステナブル社会協創概論(新入生ゼミ)、ライフデザイン論、協創コミュニケーション論等	①志向	①②③
②専門知識の獲得と深化 ※1年次:基礎 ※2~4年次:専門	各自の関心に応じて3コースのいずれかを軸に専門的知識・スキルを修得する。他専攻も履修し、知の横断を実現する。	●共通教育科目(主に1年次) 学術リテラシー、DS科目、環境系科目、教養系科目、外国語、+防災士・環境系資格科目等 ●専攻系・学環コア科目(1年次~4年次、3年次以降コース分化) ネイチャー、ウェルビーイング、ソーシャルの3コースに関する専門科目 ●専攻系・拡張科目(1~3年次) ネイチャー、ウェルビーイング、ソーシャルの3コースに関する学部科目	②思考	①②④
③社会実践 ※1年次:基礎 ※2~4年次:専門	学内外の現場で課題発見・解決に挑戦し、協働的实践知を養う。	●実践系・価値協創実践科目 海外PBL、フィールド実践1~3、インターンシップ	③試行	①②③
④価値創造 ※主に4年次	学修と実践の成果を統合し、新たな社会的価値を創出・発信する。	●実践系・価値創出科目 (卒業研究・卒業制作)	④至高	①②⑤
副専攻科目: SPARC・X-FACT・ENGINE				

3.主専攻領域の配置

「思考」における専門性の深化を目的として、以下の3領域を設ける。学生は1つを主軸に据えつつ、他領域を副次的に履修し、学際的な発想と連携的課題解決能力を培う。

サステナビリティを考える3専攻領域		
コース	コースの設置目的	主な科目（※共通教育を除く）
①ネイチャー・デザイン	自然と人間社会の関係性を再生・再定義し、循環型地域社会の構築を探究する。	環境倫理、ランドスケープ、ネイチャーポジティブ、再生可能エネルギー、防災減災、資源循環など
②ウェルビーイング・デザイン	個人・組織・社会の健全性と共感的関係性を基盤としたウェルビーイングの探究。	心理・教育・健康科学・福祉・経営・行動経済、感性工学など
③ソーシャル・デザイン	地域・企業・自治体・国際社会における協働的制度設計・ガバナンスを学ぶ。	公共政策、環境法、社会デザイン、地域経営、国際協創など

4.教育方法と学修支援

- ①アクティブラーニング方式、RBL・PBL、協創演習を教育の中心に据え、理論と実践の往還を重視する。
- ②地域協創・多世代共学・国際連携を通じて、現場での学びと多文化理解を促進する。
- ③オンデマンド・先取り履修・リカレント対応により、社会人や高校生など多様な学習者に関かれた教育環境を整備する。
- ④学修成果は電子ポートフォリオ・発表会・社会実装プロジェクト等で評価し、DPとの連動を図る。
- ⑤デジタルツールやAI等に関しては、適切なリテラシーを育成・獲得した上で、効果的に活用することを前提とした上で積極的に活用する。

5.学修成果の統合と発信

本学環における最終的な学修成果は、卒業研究(地域協創プロジェクト・社会実装活動)などを通じて統合的に表現される。学生は、学修で培った「志向・思考・試行・至高」の力をもって、新たな社会的価値を創出できるようになる。